

平成十九年史跡探訪レポート

市内 — 豊前街道・境川から海門寺へ

別府史談会創立二十周年記念事業として、「豊前街道」と周辺史跡の解明が取り上げられることになった。これを受けて、今年度の市内史跡探訪は豊前街道の跡を辿ることとし、先ずは、境川から野口・北浜界限を探訪の対象として取り上げた。

旧豊前街道は、境川から富士見通りに出て日暮庵跡から通りを横切り、野口中町から元町、別府駅北側高架下を通り、駅前本町、秋葉町を経由して浜脇・銭瓶峠へと連なっている。今回は境川から駅前周辺を散策することとし、境川小学校前から歩を進めた。

探索ルートは、境川↓天満神社↓萬松寺↓別府大仏跡↓日暮庵↓甲斐家住居↓財間酒舗↓山田別荘↓北浜秋吉邸↓本願寺別府別院↓海門禅寺で、天満社・萬松寺・海門禅寺など由緒ある寺社のほか、江戸時代築と伝えられる甲斐家の白壁の土蔵なども探訪でき、改めて歴史の重みを感じさせられた。

今回は駅前から浜脇の路線を探訪してはと考えている。

市外 — 阿蘇路・二重峠探訪

十月二十八日（日）、別府史談会は恒例の市外史跡探訪を実施した。参加人数は三十八名。一行は好天にも恵まれ、別府市新港町の花時計を午前八時に出発した。やまなみハイウェイを経て熊本県阿蘇市の「阿蘇神社」に参拝後、阿蘇市史談会の渡辺昭義先生と同神社の阿蘇治隆彌宜（ねぎ）から神社の説明を受けた後、山門前で集合写真を撮影した。

次に「阿蘇山 西巖殿寺」へ行き、鷲岡嶺照住職から説明を受けた。また本堂に安置されている鎌倉時代の諸仏像を拝観した。昼食後、渡辺先生の案内により参勤途次細川公の使用した「石的茶屋跡」を見学、当主の小糸豊寛氏から説明を受けた。その後、二重峠（ふたえのとうげ）へ行き、渡辺先生から参勤交代時に通った石畳の残る「豊後街道」及び「西南戦争の激戦地」の説明を受けた。一行は大観望を経て、十七時頃別府に帰着した。